

マネ協だより

第12号 令和6年1月

【油圧式集材機(前田製作所製)現地研修会開催 10/25】

郡上森林組合が皆伐事業地での木材生産向上のため、郡上森林マネジメント協議会に指導を依頼し、油圧式集材機を活用した集材のOJTを実施し、その現場にて管内林業事業体等を対象に研修会を実施しました。

マネ協から事業の概要、組合から伐採現場の概要、(株)前田製作所から油圧式集材機FY253について説明が行われ、その後集材状況の視察が行われました。他に架線集材の課題である架設にかかるコストについて、ドローンを活用して省力化した事例など説明がありました。

「油圧集材機は0.45㎡クラスのバックホウで運べるか知りたい」といった質問や、「リモコンで操作ができ初心者でも作業ができることはメリットがある」「集材機を使った現場を見る機会がなく参考になった」「人材育成も重要」といった意見の他、「集材機本体価格が高く、近年の補助事業の活用にはいろいろと制約があり簡単には購入できる金額ではない」といった意見もありました。研修終了後は、林業事業体等から(株)前田製作所へ集材機に関する問い合わせなど個別に行われていました。



【令和5年度 第1回協働会議(川上部会)兼中国木材バイオマス事業説明会開催 12/5】

○川上部会 13名、郡上農林事務所、郡上市、長良川木材事業協同組合大野顧問 計22名にて開催しました。

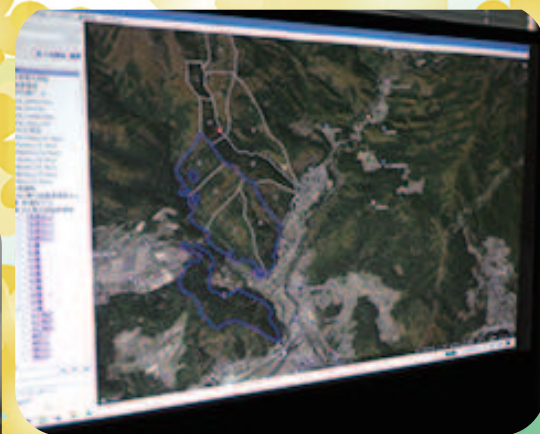
【協議内容】

- ①中国木材バイオマス発電事業について
- ②森林循環基金について
- ③マネジメント協議会の取組について
- ④制度、事業説明について



【令和6年度意向調査地選定会議開催 12/27】

令和6年度意向調査事業地選定会議が、郡上農林事務所、郡上市、地域森林監理士が集まり総勢13名で行われ、市内候補地の航空写真やCS立体図を3D化した映像、急傾斜地崩壊危険箇所図をもとに10箇所選定されました。



【3D化した航空写真】

【意向調査事業 第2回個別説明会開催】

第1回説明会開催の意向調査結果を踏まえ、個別説明会を各地域で開催しました。趣旨の確認と、山林境界の間取り等を地域森林管理指導員と共に実施しました。



【八幡町小那比 10/26】



【高鷲町大鷲 11/6】



【白鳥町中津屋 11/9】



【和良町下洞 11/22】



【和良町野尻 11/29】



【大和町中神路 12/4】



【八幡町西乙原 12/7】



【八幡町相生 12/14】

【郡上市のスマート林業への取り組み紹介】

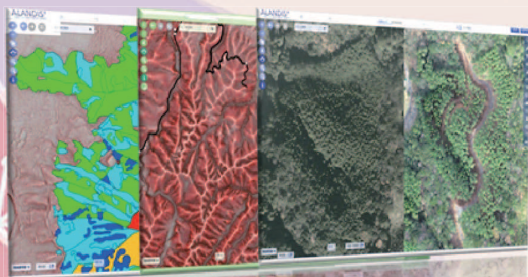
郡上市は、総面積約10万haのうち、森林面積が約9万2千haを占め、私有林の人工林は約4万2千haと豊富な森林資源に恵まれ、人工林は郡上市森林整備計画で定める標準伐期齢の40～50年生以上となるスギ・ヒノキ林が73.5%と利用可能な時期を迎えています。一方で、林業は、厳しい自然条件下での人力作業が多く低い生産性といった特性があり、従来手法による現地調査、経営計画の作成業務には、非常に手間と時間を費やしています。

市では、デジタルデータに基づくシステムを構築して高精度な計画作成や現場作業時間の大幅な時間短縮、省力化を図るため、郡上森林マネジメント協議会へ実証業務の委託をしており、森林組合や林業事業者と連携した下記の実証事業を実施しています。

【実証内容】

- ・岐阜県の航空レーザ計測データを活用した単木データの解析
- ・単木解析結果を活用する森林マネジメント支援システムの導入、構築
- ・森林マネジメント支援システムを活用した高精度な森林経営計画作成等の実証
- ・森林組合、林業事業者等関係への操作研修

デジタル技術の活用による高精度な森林資源情報の共同利用により森林管理の一元化、資源の循環利用を進め、効率的で高精度な森林施業計画の作成による長期的かつ安定的な木材生産を確立するため、スマート林業の実現に向け取り組んでいます。



アジア航測株式会社資料提供加工

※この事業は、岐阜県のぎふ地域DX推進補助金を活用して実施しています。

郡上地区林業労働災害レスキュー訓練 開催

昨年に引き続き、林業労働災害被災者を安全かつ迅速に救出・搬送するための必要な知識と被災時の救出手順を学ぶため、下記のとおり、郡上北消防署の協力を得て、郡上地区林業労働災害レスキュー訓練を開催しました。

1. 開催概要

【日 時】 令和5年9月26日（火） 【場 所】 郡上市大和町古道地内市有林

【参加者】 郡上市内 林業事業者の森林技術者等 4社12名

2. 現地研修内容

【訓練①：緊急通報訓練】

・緊急時に「必要な情報」（「緯度・経度」、現場の目印、案内の人の有無、被災者の状況（けがの状況、意識）をはやく確実に伝えるための模擬通報を実施。



救出訓練

【訓練②：倒木の下敷き状態の被災者救出訓練】

・被災者の意識や状況を確認し、被害拡大防止のために木を安定させる方法や、木が大きくなり人力では除去できない場合に、周りを掘って被災者を倒木の下から引きずり出す方法を実習。



応急処置訓練

【訓練③：応急処置訓練】

・三角巾や包帯を使った固定の仕方や、止血方法を実習。

【訓練④：身動きできない被災者の搬送訓練】

・マネキン（人形）を簡易担架や背負って運ぶ訓練を行い、人を運ぶ難しさを体験。



搬送訓練

3. ふりかえり

○参加者の意見等

- ・実際に労働災害が発生した際に、昨年度の当訓練に参加した経験が役立った。
- ・連絡手段、現場へ行く際の目印、現場の緯度・経度、救急箱の見直しを行う。
- ・筋肉量の多い部位（腿、臀部等）が長時間圧迫された箇所が急に解放されると、クラッシュ・シンδροームで様態が悪くなることもあるため、注意が必要であることを知った。

○講評（郡上北消防署）

- ・場所や人数が少ない場合などは救助に係る時間を見極めて、何を優先すべきか考えることが大切。ヒヤリハット、一つ一つに対して具体的な対策を行うことが大切。

※お問い合わせは、郡上農林事務所 林業課まで (tel: 0575-67-1111 (内線 251))

広葉樹 1

スギやヒノキが建築材として大量に使われるようになりましたが、広葉樹もいろんな樹種が用途に合わせて使われています。国産広葉樹が減少し輸入材が大半を占めるようになった近年では「広葉樹はパルプ」という間違った捉え方がはびこっています

「広葉樹はパルプ？ とんでもない？ 有用広葉樹は今でも需要大 !!」

1 拡大造林の終焉

戦後の拡大造林で「伐れや、植えろや」の号令の下、広葉樹山を伐採しスギやヒノキを植林してきました。伐採された広葉樹は樹種、規格によって家具材や木工具等幅広く使われ、規格外の広葉樹は広葉樹チップ（Lチップ）として大量に消費されてきました。

現在では広葉樹林は北海道や東北地方、各地でも減少した限られた森林となっています。

2 伐期を向えた針葉樹(スギ・ヒノキ)の増産と利用拡大

戦後植栽の針葉樹が伐期を向え、高性能林業機械を導入し大量に生産、消費される時代となり、いつしか広葉樹伐採を経験していない森林技術者が増えてきました。伐採しても、前に伐採された広葉樹山が天然更新した等、まだ若い森林（径が細い）での作業のため「広葉樹はパルプに」との指示が、いつしか「広葉樹は全てパルプに」という間違った認識をすることとなってきました。

3 輸入広葉樹の増加(国産広葉樹の減少)

建築用材と同様に、広葉樹も用材、チップ材がロシア他、世界から大量に輸入されるようになり国内広葉樹加工業界のシェアも輸入材が占め、国産は限られた量が天然広葉樹山から産する程度となりました。

4 3大ショック(コロナ・ウッド・ウクライナ)と厳しい広葉樹用材確保

令和になってから立て続けの三大ショックにより輸入停止、流通コスト等の物価上昇、円安による輸入材価格の高騰等により用材の確保が厳しい状況となり、**高山の家具業界、関市の刃物業界など地場産業にも大きな影響**が出ています。

5 「ナラやクリほか家具材を、刀剣鞘材や 刃物柄材などが国産材で欲しい !!」

最近、上記のような「悲鳴」がようやく山側に直接届いてきました。

どんな広葉樹が有用材として利用できるか。
ここからの詳細は次号をお楽しみに !!



石徹白産ナラの木

発行 郡上森林マネジメント協議会

〒501-4223 岐阜県郡上市八幡町稲成525-7

Tel 0575-67-9533 Fax 67-9633 E-mail g-management@wind.ocn.ne.jp

https://www.gujo-f-mgmt.com/